KH2 DX Vacation in GUAM

JG1AWO 堀内知行

筆者は堀内知行（チコウ）（JG1AWO）と申します。弟の堀内周樹（ JR1QCQ）が皆様には日頃大変お世話になっており、ありがとうございます。最初に個人的なことで恐縮ですが、少し筆者と少年時代の電子工作について触れたいと思います。

１．少年時代と電子工作

筆者は計測関連の会社に奉職しておりましたが、アマチュア無線に殆ど関与していませんでした。唯会社には○○１　YEW と言うアマチュア無線クラブがあって、結構活動していたようでした。
子供のころに、「鉱石ラジオ」を作った経験があります。当時は「子供の科学」という子供向けの科学雑誌があり、その中にこの電子工作の記事がありました。訳も分からずに兎に角部品を秋葉原に行って買い集め、記事の内容のとおりにスパイダーコイルを巻き、バリコン、鉱石検波器、を結線して、マグネチックレシーバーを耳にかけました。
最初はガーガーピーピーしか聞こえませんでしたが、鉱石検波器の穴にきりを突っ込んでキリキリやると、何と！何と！！！日本語が聞こえてきました。
驚きました。たまげました。あの時の感動と興奮は未だに鮮明に思い出されます。
しかし、この感激もつかの間、良く聞いてみると混信しているのが、分かりましたので、バリコンを気持ち回してみたり、鉱石検波器の穴からきりでチクチクと突っついてみたりして夢中になっていましたが、努力の甲斐あってまともな放送が聞けました。
たわいもない話ですが、純真な小学生の子供には「天下をとったような気持ち」でした。

そらからどんどん興味が深まって、電池電源で真空管を使った受信機を作りましたが、今どんなものだったかは覚えていません。
６ Ｃ６－６　ZP1 －１２　Ｆで並三受信機を作った時はまず、結線図の部品の記号がわからなくて調べまわったり、近所のお兄ちゃんに教えてもらったり、誠文堂新光社から「ラジオのつくり方」という本を教えてもらって必死に読みました。このころは秋葉原に出かけるのがとても楽しみになり良く出かけました。あの屋台の並ぶ巣窟みたいな店頭で「学童服」を着た坊主頭が迷っていると店のおじさんが懇切丁寧にいろいろ教えてくれました。
うれしかった。・・・この頃は「秋葉原」くらい好きな街は他にありませんでした。

シャーシーにリーマーで穴を開けて真空管のソケットを取り付けたり、電子部品を取り付けて、半田づけして徹夜までするくらい夢中になりました。最初は半田づけも芋はんだが多かったり、電子部品の被覆までジュージュー焦がしてのですが、回数を重ねるうちに結構うまく出来るようになりました。
この時の苦しみは「ハム」でした。あの「ぶーん・・・」全く不愉快な音。
自分なりに電源ラインと信号ラインを離してみたり、配線の位置を変えてみたり、部品を位置を変えたりしていました。回路理論など全く分からず、ただ闇雲に物をいじくりまわしていました。
60年位前のことなので、記憶が怪しい面もありますが、
その後は6　WC5 －6　D6 －6 ZDH3 Ａ－6　ZP1－ １２　Ｆのスーパーヘテロダイン受信機をつくりました。
これには確か同調をみるマジックアイをつけてグリーンの光が開いたり、縮まったり・・・
夜、裸のシャーシの上に真空管のフィラメントが淡い赤でボーと点っているのが大好きでロマンチックな気分になっていました。
子供のころは結構楽しく遊んだと思いますが、その頃は家計の状況がとても厳しく、堀内（周）　OM も同様ですが、兄弟で新聞配達をやっていました。そのお小遣いを貯めて、学校での昼飯はコッペパン一個（10円）にいちごジャムを薄くひと塗り（5円）したものを食べて節約し、電子部品代に当てていましたから、一個の真空管が筆者にとっては「お宝」でした。

２．アマチュア無線をやってみたい

退職後、 CQ 誌などを時々読んだりしていましたが、70歳ごろに、アマチュア無線をやってみたいという気持ちがムラムラと湧いてきて、先ずアマチュア無線の3級の免許をとりました。
この時の夢は「南極との交信」「月面反射の実験」です。
この夢は年寄りの初心者には「無謀」と思うようになるのに時間はかかりませんでした。
（岩井さんの　CW 見ていたらもうあきません。上村　OM から8　Ｊ１　RL（南極）を見せてもらいました。
これ「お宝」です。）
でも日本国の各地域との交信はやってみたいと今でも思っています。
トランシーバーを購入するにあたっては無線やの堀内（周）　OM に相談して、リグの選択、アンテナの選択を秋葉原の電気街でやりました。
早速狭い土地の中で工事をうまくやってくれました。
SWRの調整も出来て、 UVHF はかなりいい感度で交信が出来る様になりました。
しかし、ワッチも経験不足ですが、短波は中々うまく交信出来ません。
「清瀬アマチュア無線クラブ」を紹介してもらって入ったのですが、7 MHz、21 MHz、50 MHzともあまり交信が上手く出来なく、悶々としていました。

あるとき堀内（周）　OM が「与野アマチュア無線クラブ」で GUAMにコンテストに毎年行っているが、今年も12月に行くけど「どうか？」と声をかけてくれました。
オールドビギナーだし、足でまといになるだけと思い、迷っていましたが、後ろの方で「オペレーションを見るだけ」ということで参加させていただくことになった訳です。
また Ｂ＆Ｂで一日30　USDも食指が動いた要因です。

３．　２０１２年　KH2　DX　Vacation 参加者

皆藤紘一 OM　（　JL1FYW ）
田淵紀一 OM　（　JJ １ CDY）
岩井仲一 OM　（　JH １ EMT）
上村新八 OM　（　JA １ HOD）
堀内周樹 OM　（　JR １　QCQ ）
堀内知行 OM　（　JG １　AWO ）

４．２０１２年１２月６日（木）　晴　　GUAM　Island

京成スカイライナー日暮里06：35発に乗り、空港の「さくらラウンジ」で朝食との計画が示されていたので、筆者は朝4時半に起床して、家ではコーヒーを楽しむだけとして西武線清瀬駅を出発。日暮里駅には堀内（周）OM が改札で待っていた。その後各　OM が集合して、一路成田へ。
「さくらラウンジ」では普段の朝食では食べないような食事とビール、ワインで朝からリッチな時間を過ごし、09時25分には JAL 941便　GUAM行の機上の人となりました。天気は晴れで気持ちの良いフライトであり、暫くしてからの機内食をゆっくり楽しんでいたら、前の席から「赤ワイン一本頼んでくれ」との依頼あり。変だなとは思いましたが、まあ筆者も2本飲んでいるし、「もう一本頼もうか」とキャビンアテンダントに注文したら、直ぐにゲット。すると前から手が出てきたので、筆者は直ぐに手渡しました。
前の席で何かあったのではないだろうか・・・・・・・・？？？
機はGUAM上空に近づき、ゆっくりと高度を下げ始め、機窓からは特徴のあるビルの日航ホテル、

アンダーソン基地が見えてきた。といってもこれは隣に座っている堀内（周） OM が教えてくれた。
JL941便は更に高度を下げて滑走路に入り、何のトラブルもなく税関を通過して、空港の外に出ました。ムッとする暑くて重い空気が襲ってきて、筆者は東京の冬の衣装なのでことさら暑い。

GUAM 島は日本の東南役2500 Km に位置するマリアナ諸島最大で最南の島である。周囲を珊瑚礁で囲まれた南北に長い島で総面積は550 Km² で丁度日本の淡路島ほどの大きさである。（シンガポールも同等の大きさ）北部は断崖が続く壮大な景観であり、南部は小湾が多く美しいビーチが広がっており、内部はジャングルであるが、小高い山が多く、大体400 m前後である。

人口は約18万人で USAの自治属領であり、 USA市民権は取得できるが、大統領の選挙権はない。

レオパレスの送迎車に6人が乗り込み30分位平坦な道を通って少し小高い丘陵に着くと、そこに白亜の沢山のコンドミニアムが見えました。
赤い土、緑の木、白い建物と遠くに海の景色は南国の情緒たっぷりの景観です。
チェックインすると、803、805、806号室がこれからの通信基地になりました。筆者と堀内（周） OM はありがたくも803号室で、兄弟が同じ部屋で一緒に寝るのは何十年ぶりでしょうか。・・・・

8階は最上階で部屋からの眺望が良く、北側にGUAMの美しい海、東側はコンドミニアムのプール、ゴルフ場、野球場、池等々ここのスポーツ施設が見えました。
ギラギラ輝く太陽とムッとするような熱風の中に身を置くと、昔現役の時に赴任したシンガポールやマレーシアの生活が思い出されました。
早速、短パン、 Tシャツに着替えて司令塔の805室に集合、アンテナの工事説明を受けて、ビールで乾杯してから、作業にはいりました。
誰が命令するでもなく、全員が手際よく12．7 mのグランドプレーン・アンテナを805号室のベランダから北に向けて（日本の方向）設営しました。その間約一時間位しかかからず無駄のないこの作業の進行の迅速さに驚きました。
トランシーバーを結線して SW オン。
緊張する時間です。
すると、何と、何とガンガンと英語が入ってくるではないですか・・・（清瀬とエライ違いだ！！！）
上村 OM 、岩井 OM はもう次から次へと交信成功。
ロシア、ブラジル、ウルグアイ、オーストラリア・・・・
その内、 CW のトーンが聞こえてきました。近くにいた
岩井 OM が突如電鍵を握り締め、まるで機関銃を射っているような速さで信号をおくりました。
この交信を傍でボーッと聞いているとまるで音楽を聞いているようでした。
ショパンのピアノ曲の「子犬のワルツ」いや「雨だれ」・・・
CWもこんなに早く打てれば快感だろうな・・・（まあ 筆者には遠い世界の話か）
夕食は堀内（周） OM のこころの心のこもった「鶏出汁の稲庭うどんと白髪ネギ添え」を一日疲れた胃袋に流し込んだ。
今日一日は沢山の未知の世界に踏み込んだので10時にはスヤスヤ・・いや多分イビキをかいて爆睡でした。

5. 2012年12月7日（金） 快晴

朝7時、部屋から出るとムッとするような空気が身をつつむ。805室に「おはようございます」
モーニングコーヒーを楽しんでから、おもむろにレストランのあるホテルの建物に出掛けた。
レストランの入口には沢山の写真のパネルが展示してあり、よくよく見ると知っている顔が沢山ある。
日本の水泳連盟の合宿練習、巨人軍の開幕前のキャンプ、早稲田大学野球部の合宿等々の写真集とサインであった。

「ウーン　なんも言えね」
「青いハンカチ」
韓国の水泳チームの合宿の集合写真も展示してあった。このレオパレスは韓国人も圧倒的に多い日本人の次に利用しているようで、ハングルの文字の案内もチラホラ見かけました。
朝食は和洋中のバイキング。
食後はホテルのロビーでゆっくり休み、中庭を散歩してから通信基地にもどりました。
中庭には真ん中に池があり、その周りに沢山の南国の木々が植えてあった。朝の澄んだ空気の中の真緑の木と空の青、ブーゲンビリアの赤（花には詳しくないが多分そうだろう）の色彩の鮮やかさが目にしみる。
9時：50　MHzのアンテナ工事開始。このアンテナはなにかブランコみたいなものをぶら下げたカッコをしていたが、理由はわからない。
SW オン。暫しダイヤルを操作していたが、空電やバズ音が多く、どうも空中のコンデションがよくないらしい。一旦諦めてまた短波の交信にはいった。
13時30分：昼食はポテトサラダとサンドウィッチそしてビール。
13時59分：岩井 OM がダイヤルを合わせたのか突然女性の日本語の声が聞こえました。
あッ！小笠原の父島の山田和子さんの声。
ご存知の方も多いと思いますが、父島に　Key stationを置く「オケラネット」と言うヨットの情報ネットで、毎日12時40分から国内やヨットからその地域の気象、気圧、温度等々の情報を交換している。
北海道から九州までのアマチュア無線家がネットしているが、東京の巣鴨高校のアマチュア無線クラブも楽しそうに参加している。
今まで沈黙を守っていた（いやいや　正直言って、専門用語の飛び交う会話の翻訳に懸命な努力をしていた）筆者が乗り出した。気のついた周囲の　OM が「どうぞ　どうぞ」
マイクを握ったが中々言葉が出てこない。
「あー　KH1・・いやKH2・・うーん　キング・ヘンリー・ツ・ストローク・・・」
「　AWO さん　こんにちは　オケラネットの山田です。いいですね。　GUAMですか」
「そちらのシグナルはファイブ・ナインでベリクリアーです」
「　AWO さん・・・」
ここで空中の状況が変わり、交信は中断してしまった。
でもいままで清瀬では受信一方だけだったのが今日交信できて良かった。親しそうに話したが、初めての会話だった。山田和子さん　山田和子さんなんて気楽に言ったが全然知らない人。
各 OM はその後もロンドン、ブラジル、オーストラリアと頻繁に交信。
兎に角各 OM は入感した電波に素早く食らいつき、逃さずに交信を成功させていまう現実をしっかりと見ました。
筆者に欠けていたのはこれだ。
相手がCQCQ・・言っているのに返信に遅れをとって他の局にさらわれてしまう。これを強引ではなく紳士的にやるのだからすごい。

暫くしたら、どの周波数帯も電離層の状況が良くなく、もう幾らベテランでもどうにもならないので、状況の変化をじっと待つ。つまり電波がビールに変わった。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

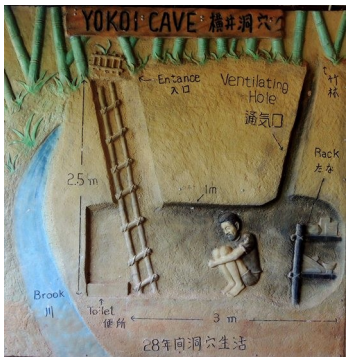
受信機が又吠え始めた。それッとマイクをにぎる。
筆者は時々海釣をやりますが、遊漁船の船長が船を操作しながら魚探を見て、魚群が発見されると船を停めて竿を下ろす支持をだします。これがチャンスで魚がかかったら直ぐ釣り上げ、手際よく処理して、寸刻を惜しんで次を狙うというのと良く似ています。
海は魚、空中は電波のワッチがとても重要だと思いました。
今日の夕食は特製のカレーライスとサラダ。
「今日はちょっと過変調だな」と誰かが言ったが意味がわからない。
夕食後ホテルのロビーで「明日の GUAM一周ツアー」に参加できますかと聞いたら99%　OK なので
明日朝9時に75 USDもってこのロビーに来てくださいとの返事。

6. 2012年12月8日　朝スコール後晴

朝食後75　USDもってロビーでバスを待つ。
9時7分にバスが到着したので乗車。ホテルからも15人ほど日本人だろうが参加した。
出発時に送りに来ていただいた　OM に敬礼！
今日のGUAM一周のツアーでは「横井洞窟」が含まれており、その関係でなんとなく敬礼の挨拶になってしまった。
さて、落ち着いてバスをよく見るとどうやらツアー参加者は日本人で約30名、バスは何となく汚れていて、合衆国で使いふるされたのが　お下がりで GUAMで走っているのではないか思わさるを得ない。市内で見たバスも殆どいわゆる「ポンコツ車」ではないか。でも車検もない事だし、走ればよし。
このバス実はアンダーソン基地の近くで故障した。援軍が来るまで暫し乗客は車内で待っていたのである。

カメラマンが乗り込んで、ホテルを出てバスは順調に走り出したが、直ぐに運転手が自己紹介とカメラマンの紹介を流暢な日本語で初めた。と言ってもぺらぺらとよくしゃべるのではあるがよく聞き取れないのである。
「これ日本語？」
といった感じである。
運転手は日本語に自信があるのであろうかとにかくぺらぺらとよくしゃべる。しかし解かる単語は20%ない。GUAM島の北側の海岸沿いの道は綺麗な海がよく見えて楽しい。
ガンポイントでは旧日本軍の3門の大砲、防空壕が観光資源？？？ガイドは得々としゃべる。
右に見えるのは「眼鏡橋」と運転手が左にマイク、ハンドルを持っていた右手を離して指をさす。
長崎の眼鏡橋を真似て姑息に作ったものと思われるが、観光の素材を作るのに苦労してますね。
また右に見えるのは　GUAMの松です。
社内の人の目線が右を向くと
「おそまつ」
どっと笑いがでるので、この運転手は笑いをとった。座布団一枚！！

マジェラン上陸の記念碑を右にみてバスは一路 Marizoへ。
ここでココス島を沖にみて遊覧船にのる航程である。カメラマンが懸命に走って桟橋の入口にたって乗船する観光客を一生懸命カメラに収めている。
この場所のを通らないと船にのれないので、皆い言われるままのカメラに収まってる。（写真は後で販売され、買わなくてもいいのだが、カメラマンはそんな事は言わない。）



船が岸を離れると船長さんこちらを向いて
「シートベルトを占めてください」
乗船客はプラスチックの簡易ボートに何もないのでキョロキョロしていると、頃合をみて
「冗談ですー」
「馬鹿にしないでよー」と言いたくなる。
水深の浅い海をスラロームしながら快適に走り、海から美しいGUAM島を眺めるのはなかなか楽しい。２　ｍくらいの浅瀬ではボートを停めて珊瑚礁を楽しませてくれるが、とっても綺麗だった。
ほんとに GUAMの海は綺麗で、ダイビングスポットは沢山あると聞く。
バスは「　Talofofo の滝」に向かった。ここは　GUAMでもしっかりした観光施設であり、GUAM唯一のロープウエイに乗って滝に向かって少し降りてゆく。滝は三段あり、いずれも岩盤の上を水が滑り落ちるようにながれている。丁度袋田の滝の小型版といったところか。
5分ほど行くと粗末な囲いの展示場があり、横井さんの洞窟の構造の絵が展示されており、28年ここで暮らしたとある。洞窟だが川から直ぐ近くの岸に深さ3　ｍぐらいの竪穴があり、そこから横穴の生活空間であり、竪の空気孔がある。

このジメジメした暗い洞穴で一人で28年間も気も狂わず、下痢もせずによくも生きていたものだと思う。この洞窟を見ているだけで涙が出てくる。（戦争、中野学校、家族、人生・・・・）

バスは少し道を戻り、イナラハント・トンガンリゾートに停車し、そこで昼食である。
牛　豚、鶏の　BBQ と野菜サラダ等々、ビールは別価格で3 USD。黙々と食べて、綺麗な海岸を散策したが、照りつける太陽とぎゅうぎゅうとなる浜辺の感触がいい。
再びバスの人となり、何の変哲もない東海岸をひた走って南太平洋戦没者慰霊公苑で下車。
慰霊碑にお参りするが、他にも筆者が訪れたマレーシア、インドネシア、シンガポール、沖縄、パラオ、　ベリリュウ島で悲惨な戦争の傷跡を未だに残している。
バスの中で居眠りがではじめる頃にアンダーソン基地を右にみて、ここから恋人岬に向かう予定だったが、バスが故障して30分ほど停車した。
恋人岬はGUAMで一番美しい絶景ポイントと思う。
マンゴのアイスクリームを食べながら、 XYLなどには見向きもせずに景色を楽しんだ。

ウエスチンホテルに着いたのが午後5時ごろ、5時半発のレオパレス行のバスを待つ。
6時ごろ805室をノックして
「恥ずかしながら堀内知行只今帰りました」

夕食はビーフステーキに野菜サラダ。

7. 2012年12月9日（日） 晴

今日はGUAM通信施設での交信の最後の日である。
南国の雰囲気、室内で飛び交う専門用語にもすっかり慣れ、今日こそは沢山　QSO　するぞと気合を入れて805室へ。
朝から21MHzは調子よくガンガンとはいってくる。
各 OM 、特に上村　OM 、岩井　OM はハイピッチで交信記録を積んでいる。
昼食は激辛麻婆豆腐ライスと野菜サラダだったが、筆者にはこの辛さがたまらなく美味かった。

KILO　HOTEL　TWO　STROKE　JULIETT　GOLF　ONE　　ALFA　WHISKEY　OSCAR
KH2/ JG1AWO
This is from GUAM island
Calling and standing bye
なんちゃって・・・
まだ考えながらしゃべっているのでもっと頭は使わずに口が動くように訓練しないといけないとつくづく感じました。
結構交信は成功した。
筆者は7局とコンタクトすることが出来た。ほんのちょっとだけどこの喜びは大きい。

午後には各 OM からアンテナの講義を受けた。
帰国後に検討してみたい。

夕方から市内の繁華街へ出掛けた。あちこち見てからお土産の購入である。
GUAMもレオパレスでは殆ど見かけなかった若者だが、ここでは多くの若者でごった返していた。
DFSは日本人が本当に好きな場所である。
とは言っても、筆者も若い頃出張で海外にゆくと、必ず、酒とタバコをごっそり買ってきたものだ。

暫く夕方の　GUAM繁華街を散歩して、ウエスチンホテルの近くのカプリチョーザ（イタリアンレストラン）にはいり、「打ち上げ」をやった。ワインで乾杯して、料理は外国人用の大盛りなので3皿を注文して6人で食べたが、満腹になった。

8. 2012年12月10日（月）　晴

朝　若干の交信をしてから、いよいよ4日間お世話になったアンテナの撤去作業である。
テキパキとした作業で短時間で荷造り完了。
昼食は鮭おにぎりとゆで卵。
このにぎり飯は若干の塩を入れて炊いた飯を握ったもので中々の出来である。
GUAM空港のラウンジで十分休養をとって　JL942便でお世話になった　GUAMを離陸した。
成田には18時10分に着陸し、この5日間の「 KH2　　DX　　Vacation 」を無事終わる。
皆様大変お世話になりました。
また何時か機会がありましたら、宜しくお願いします。
73

＊　KH2　総交信数

周波数別

・7　MHz	7局
・14 MHz	4局
・18 MHz	1局
・21 MHz	22局
・28 MHz	55局
・50 MHz	2局
・合計	91局

国別

・ JA	73局
・ GUAM	4局
・インドネシア	4局
・リトアニア	3局
・中国	2局
・台湾	1局
・米国	1局
・フィリピン	1局
・英国	1局
・ロシア	1局
・合計	91局

＊総酒量

・焼酎4本（720　ml）
・ウイスキー　2本（720　ml）
・ビール108缶（350　ml）
・　JAL ワイン20本以上（180　ml？）

＊総費用

・航空運賃￥56770．／人
・　B＆B　LEOPALACE in GUAM30　USD＊5泊＝150　USD／人＝￥12750.
・現地食費￥10000．／人
総経費／人　　56770＋12750＋10000＝79520円／人

以上